

令和 6 年度第 3 回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議結果

- 1 会議日時 令和 7 年 2 月 1 0 日 (月) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 1 0
- 2 会議場所 幸立文化センター
- 3 出席者 [委 員] 朝倉委員 大石委員 弟月委員 樫原委員 小松委員
佐々木委員 高田委員 多田委員 筒井委員 寺山委員
永坂委員
[事務局] 部長・石原 課長・山田 副主幹・松岡、田村
[傍聴人] 0 人
- 4 議 題 (1) 令和 6 年度男女共同参画事業報告について
(2) 令和 7 年度男女共同参画事業予定について
(3) その他
- 5 資 料 ・ 令和 6 年度第 3 回さぬき市男女共同参画推進協議会次第
・ 資料 1 令和 6 年度男女共同参画推進事業
・ 資料 2 令和 7 年度男女共同参画推進事業予定
・ (参考) 第 3 回男女共同参画推進協議会 意見交換について 外

6 会議要旨

発言者	意見概要等
	< 開 会 > (14 : 00)
事務局	只今から令和 6 年度第 3 回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 多田会長からあいさつを申し上げます。
会長	< 会長あいさつ >
事務局	会議の進行は、さぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき、多田会長にお願いします。
会長	まず、会議の公開についてです。本会議は、「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき、「原則公開」となっています。非公開の案件がない限り、公開とすることとします。まず、傍聴申請について、人権推進課長から報告してください。
事務局	現在のところ、傍聴希望はありません。
会長	今のところ傍聴の希望はありませんが、会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。はじめに、本日の会議についてです。本日の会議時間はおおむね 1 時間半～ 2 時間程度を予定しております。スムーズな進行にご協力をお願いいたします。議事 1「令和 6 年度事業報告」、議事 2「令和 7 年度事業予定」について、事務局

	からまとめて説明をお願いします。
事務局	<資料1、2に基づき説明> ・令和7年度男女共同参画週間パネル展についての問い合わせ
会長	事務局からの説明が終わりました。それでは、事務局から問い合わせのあったことについて意見等ありましたら挙手をお願いします。その他にも質問や意見があれば挙手ください。
委員	以前、本庁舎の奥まった場所にある市民ホールではなく、入ってすぐの場所に展示できないかという話があったと記憶している。全部をそこに展示するのはスペース的に無理だが、子どもたちの作品や川柳・俳句等目を引くものを、飾っておけばそれなりの人数が見てくれると思う。以前は防災の関係で展示できないと言われた記憶があるので再度確認をお願いしたい。それができれば市民ホールにゆとりができるため、座って話ができる場所を作れば、人が集まる可能性があるのでは。
委員	平日に来場者を増やしたいということによいか。子どもは学校があるので平日に見てくれる人を増やすのは難しいのではないか。例えば、辛立文化センターの冬のつどい、夏のつどいのように啓発日を設定し、子どもの絵の展示、バザーの開催、啓発グッズの配布などすると、子どもが家族を連れて来るのではないか。そもそも市役所へ用のある人がそんなに多くはいないと思う。
委員	先ほどの意見で、防災の観点から市役所の玄関ホールが使えないということについて何か知っているか。
事務局	点字ブロックの関係や、避難時のことが関係しているかもしれません。再度確認します。
委員	パネル展期間中の週末には講演会等の催しもあるが、平日に訪れる人はどうしても少なくなると思う。
委員	確かに催しを開催しても人が多いのは週末のみになってしまう。
委員	メイン会場を市役所として、他にも志度・長尾公民館等でミニパネル展をするといいのではないか。展示場所はトイレの近くがいい。トイレに行く人や、トイレを待っている人が壁のポスターをじっと見る姿をよく見かける。公民館には幅広い年齢の人たちが来ており、作品についての感想を話しているのも実際に聞いたことがある。無人での展示となるため、もし人数把握をしたい場合は、かわいいチラシか何かを設置し、持って帰った数で把握するとよいのではないか。場所を

	分散させてやってみるのもいいと思う。
委員	秋の市民文化祭では全ての展示物を飾っているのか。
事務局	全てではないです。展示物の量は展示スペースに合わせて毎回調整しています。文化祭が地区ごと開催されているため、その地区のお子さんの作品を中心に展示しています。
委員	文化祭は秋にあるので、6月の男女共同参画週間とリンクさせるのは難しい。
委員	周知を工夫してはどうか。広報紙やSNSをもっと活用する。例えば絵や作品をホームページなどで公開する。実際に行かなくても見られる、ということを考える必要があるのではないか。
委員	そもそも国は男女共同参画週間を使ってどうしたいのか、週間には全国でどんなことをやっているのか。無理に週間にフォーカスしなくても、その目的を土日のみの催しで達成できるのであればそれでいいと思う。
事務局	国の男女共同参画週間は毎年6月23日から29日です。催しの時期を少しずらすことはあるかもしれませんが、どの自治体もシンポジウムやセミナー、パネル展等を実施しています。男女共同参画意識を高める方法として本当に効果的なものは何なのか、再度考える必要があるかもしれません。今日いただいたご意見であれば、セミナー開催日以外は無人展示場とするというのも一つかもしれません。
委員	パネル展の参加者を増やすのが目的であれば、もう少し期間を延ばすのはどうか。私が実際に行って思ったのは、これだけ立派な展示なのに1週間で終わってしまうのはもったいない、ということだった。もっと期間が長ければ行ける、という人がいないとも限らない。パネル展の期間中の催しの開催日には、ゲームのようなものがあってもいいのかなと思う。
委員	基本方針の5の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進」に関して参考までお話ししたい。去年の11月に自社の社員を対象にパッキングの催しを実施した。男性料理教室の要素と、災害時に湯煎をしてすぐ食べられるものということで開催した。女性の参加者もあったのだが、とても好評だった。企画の参考としてもらえたら、と思う。ほかにも男性料理教室に参加し楽しかった。体験型の催しがあればいいと思う。
会長	次に、議事3「その他」についてです。事前に皆さんに周知してい

事務局	た通り、まず意見交換を行います。その後、事務連絡等の時間したいと思います。では、意見交換にあたっての説明を事務局からお願いします。 ＜（参考）に基づき説明＞
会長	事務局からの説明が終わりました。ではテーマ1について、皆さんの意見を伺います。
委員	私は大学が大切だと思っている。仕事を創出してもなかなか全国から人を集めてくるというのは難しい時代に入ってきている感覚がある。日本全国に行きいろいろな会社の人と話す、中小企業はどこも人材確保が課題となっている。ほとんどが大手に流れている印象だ。まず魅力的な大学を作って、学生を全国から入れて住んでもらい、企業へのラインを作る。私は県外出身だが、香川県に来て大学数が少ないと思った。個人的には大学から地元での雇用につなげていくのがいいと思う。徳島文理大学が高松市へ移転するので、そこも難しいとは思うのだが、市だけでなく県全体でしっかり取り組むことが大切だと思っている。
委員	私は市内で生まれ育った。海外へ留学して帰ってきたが、就職氷河期でなかなか仕事に就けなかった。県外でも就職活動を行ったが採用されなかった。最終的に高松で就職できたため、ずっと地元でいた、というところがある。仕事が無い、仕事の種類が無い、時給が安いという田舎独自の問題があると思う。プラン基本方針8の「安心できる福祉と健康のまちづくり」にある出産、子育てに関しては三木町が手厚いということをよく聞く。引っ越しても住みたいという状態なのだと思う。今、さぬき市では高校3年生までが医療費無償化だ。親としてとてもありがたい。子育てに関する金銭的支援の意味は大きい。知らない人も多いと思うので、もっと取組をアピールすると思う。さぬき市は活性化という部分についてはあまり感じられないが、本当に平和で静かで穏やかなまちだと思う。その特徴がもっと前面に出てきていいのではと思う。また、津田地区が今注目されているので、それ以外の地区でも一つずつ何か特徴を持って、もっと市をアピールしていくとよい。
委員	女性がいたいと思えるまち、という視点は大切だ。私は持続可能なまちづくりを考えながら仕事をしているが、それと同時にまちの歴史と文化についても考えている。例えば志度はずもとと寺を中心としたまちであったが、明治時代から日本が近代化していく過程で急激に産業・工業が発展した。海を埋め立て、会社を誘致し大きく発展すると同時に高松市のベットタウンということで、昭和40～50年代になってから団地を造成した。それを考えると、急激な発展を遂げたモデ

委員	ル都市のような形ではないだろうか。今、少子高齢化で体制を維持できなくなっているのではないかと。いかに時代の変化を敏感に捉え、コンパクト化していくかが大切だと思う。女性の流出というところに話を戻すと、仕事も大切だが、生活しやすい場所づくりが大切だ。最近近所のスーパーが閉店して不便を感じた。生活しやすさとは何か日々考えているところだ。 私も県外出身だ。地元には大学はないが、住みやすいまちとしてランキングでも上位に入っている。大学があっても、卒業して県外に出る可能性があり、そこに定着して住み続けてくれる人が何割いるのかなと思った。医療や福祉の充実しているまちは、その一方で、税金が高いという意見を聞いたことがある。豊かなまちであればいくらでもやっていいと思うが、高齢者の負担が増え住民の生活がひっ迫するため、バランスが大切だと思う。ではどうするか。ベッタウンというのがポイントだ。駅の近くに住みやすいマンションやアパートがあれば、家賃が安いので、徳島文理大学が高松市へ移転したとしても志度から通う人も増えるのではないかと。活動しやすいのがさぬき市の魅力だ。女性にこだわる必要はないと思う。他市と比べるのではなくさぬき市独自のものは何かを考えるといい。さぬき市は私にとって地元よりも住みやすい。物価が安い。住みやすさの基準が人によって違うので、長期的な視点で考える必要があると思う。
委員	さぬき市で去年１年間に生まれた子どもの数が１１９人と聞いた。本当に深刻化している。１１９人というと、昔の小学校の１学年だった。少子化がいつ止まるかわからない。背景には、女性の社会進出と晩婚化がある。結婚したい、子育てしたいと思えるような環境を整えなければいけない。会社や地域の支援環境を整えてこそ少子化の進行が緩やかになるのかなと思っている。国が少子化や子育て支援に力を入れているという割には、自治体の財政状況によって流出の差ができてしまっているのが現状ではないだろうか。
委員	１０年位前ではないかと思うが、国からコンパクトシティの案が来たと思う。さぬき市でも説明会があり、まちの力が衰えた際に、住民が十分な行政サービスを受けられるよう駅の近くに集まって暮らしてはどうかという提案があった。そのとき、駅から離れた場所に住む高齢者の方が、「うちは家も土地も売って志度に家を借りなければいけないのか。辺鄙なところに人が住んでいるからそこまでの道がきちんと整備される。人が住まなくなれば竹などがうっそうとして、それを整備するお金がかかる。だからうちのまちでは考えられない」と発言したそう。説明会で反対意見言ったのはさぬき市だけだったと後から聞いたのだが、これは自分たちのまちについて一生懸命考えている人たちがたくさんいるということではないか。ただ、考えている人たちがつながっていない。人口増、出生率増、人口流出防止の取組より先

委員	に今一番しなければいけないのは、さぬき市の子どもたちに「ここで生まれてよかった」と言ってもらえることだと思う。以前に比べ、周りの子どもたちから「このまちが好き」という言葉をあまり聞かなくなったと思う。コロナ禍で東かがわ市は県外に出ている大学生にすぐ物品を送った。さぬき市はなかった。まちが子どもたちや保護者をどれだけ大事にしているかによってその反応が変わってくるのではないかと思った。方法がどうこうではなく、まずは一人ひとりが自分の周りの人たちを大切にする。普段あまり見えないけれど、自分ができないことをやってくれている人がいる。そんな人たちとどうにかうまくつながれないかな、と思う。おそらく顔が見える関係になったら、「最近の若いもんは」「あのお年寄り」などというセリフも減っていくような気がする。人とのつながり作りについて行政が考えてくれないかな、と思っている。例えば市民ホールでお茶ができるようにしたらどうだろうか。お金をかけずに幅広い年代の人たちが集える場所が少なすぎる。集えば互いに話ができていろいろなことができるようになる。多くの知恵が集まる。市と社会福祉協議会が連絡を取り合えば、いろいろな情報を発信することができる。両者が協働すれば情報を受けた市民もスムーズに動けるのでよろしくをお願いしたい。 国もワーケーションやリモートワークなどを活用し地方で働こうと必死になって呼びかけているが、実情としてはうまくいっているところの方が少ないのかな、と感じる。結局、国、県、市の政策レベル全てにおいて、大企業では対応できるが、中小企業では、そもそも人がいない。大規模なところでないと取り組めないのでは、と思う。課題感を持って一定数活動しているところはあるが、先ほどの男女共同参画週間の話もそうだが、国から取り組んでと言われても、一般の人は普段それを考えながら生活していない。一瞬は意識しても、すぐ忘れる。県単位で考えないといけないのではと思う。大学をはじめとした教育や生活の基盤をどう築くかという部分は、県が旗を振らない限りは、市単位ではパイの奪い合いになってしまう。子育て支援に予算を割り振れば別のどこかにしわ寄せがくる。そのお金を賄おうとすると税金を上げることしかないのかな、と思う。地域レベルではいろいろな意見がある。つなぎ役に役所がなれるかどうか。我がごととして一生懸命頑張っている人たちもいれば、全く興味がない人たちもいる。頑張っている人が、興味がない人が興味を持てるよう伝えていく方法が無い。いろいろな組織がたくさんあるがなかなかアクセスできない、いわゆる縦割りになっていて、地域のことで旗を振るには役所のパワーが必要になってくると思う。全ては解決できないかもしれないが、私は地域の問題や、まちのよさを子どもに教えていきたいなと思っている。私自身は東北出身なので、香川県はすごくいいところだと思っている。雪もなく、災害が少なく、暖かく、交通の便もいい。飛行機を使えばどこにでも行けることを子どもにことあるごとに伝え、香川県がとてもいいところだということを今教育している。子どもが地域に
----	--

	誇りを持てるかどうかは、親や地域に住んでいる人の責任だと思う。誰かがやってくれるではなく、我がごととして取り組む人たちがどうやったら増えるのかを考えると行政の力が必要だと思う。グローバル化が進む中で、日本以外に暮らす選択肢も当然ある。日本にいても日本の事を考えてくれる日本人をどれだけ増やそうかなという時代に突入しているのではないかな。日本っていいよね、ということについて私たちがどれだけ話をできるのかなという思いがある。
委員	どうして女性はまちを出て行って帰らないのか、女性が住みやすいまちとはどんなまちか、寛容な社会を作るためにどんな取組が必要か、ということについての問いかけだったと思う。さぬき市に限らず、香川県全体で若い女性が流出している。以前は海外へ行くのは男性が多かったと思うが、今は20代では男性よりも女性が多くなっているそう。なぜ女性は県外へ行くのか、海外へ行くのかというと、答えは「このまちに魅力が無いから」だと思う。さぬき市に魅力がない、香川県に魅力がない、日本に魅力がないから出ていくということではないかと思う。女性の流出に関して、新聞や番組、ニュース解説を見ての情報だが、女性は昔と違い大学進学が男性とほぼ一緒になっている。私が大学生の頃は、女子学生は男子学生の半分だった。なぜかと言うと女性は学力をつけなくていい、県外の大学には行かなくていいという親の判断があったからだ。それが今は自由になり女性も県外の大学に行き学力を身につけて自分のしたい仕事を希望するようになった。そうすると県内にはやりたい仕事はない、東京であればある、ということ帰ってこなくなる。 もう一つの帰りたくない理由は、自分の母や祖母のようになりたくないという女性が非常に多いからだと思う。母親も祖母も大変な思いをしているのを見ている。例えば、母は義父母に気を遣って大変な思いをしていた、ご飯や家事を担うのは全部母だった、父は何もしないで威張ってばかりいた、といったことだ。もちろんそうでない家庭もたくさんあるのだが、そういうものを見て育った女性の中には、都会から地方には帰りたくないと思う人が出てくる。その現状を男性も知らなければいけないのだが、私と同年代の男性と話したら全く意味が分からないと言う。私はよくわかる。私自身そうだったので、香川にはいたくなかった。国は地方創生と言うけれど、それならば東京に一極集中しているものを分散する必要がある。国の機関を地方に移す、という話が一度は出ていたけれど結局無くなった。東京に人も企業も遊ぶ場所も集めようとしていて、それを私たちの力で止めるのは難しい。国には本当の意味で地方創生にお金を使ってほしい、そのためにも要求していかなければならないとニュースを見ながら考えていた。
委員	どうして女性がまちを出ていくのか、ということをも男女共同参画の視点から考えると、昔からの古い慣習が影響していると思う。さぬき市でも20～30歳代の女性の人口と男性の人口を比べると圧倒的に

	女性が少ない、これは全国的な傾向だ。若い人がブランド志向ということもあるのではないか、お金が無かったとしても、おしゃれなマンションに住んで、いい車に乗りたい、ということもあるので、どうしても田舎は古臭いという感覚があるのではないか。おしゃれなカフェやおしゃれなマンションが無いと若い人は定着しないのではと思う。都会に出ていく理由として、都会の方が収入がよく、地方との所得の格差というのも大きい理由だと思う。
会長	次にテーマ2について皆さんの意見を伺います。男女共同参画推進協議会委員になって思うこと、感じること、人権・男女共同参画に関し気になるニュース、トピックなど自由にお話してください。
委員	最近特に気になっているのは防災についてだ。香川県は災害が少ないと言われているが、南海トラフ地震も本当にいつ起こるかわからない。防災意識を高めていかなければいけないと思った。政治面では、選挙に際し SNS 上でいろんな情報が拡散しており、SNS の発信力が社会に劇的な変化を起こしていると思う。テレビ等オールドメディアが非難されている。最近では道路の陥没事故が気になっている。既存のインフラが老朽化し、すでに耐用年数を越えているものもある。
委員	私は地元で生まれ育ち、一時県外へ出ていたが、呼び戻された。今、実家に自身の親と子の三世代で住んでいる。私には3人の子どもがいるが、親が元気でなければ3人は産めなかった。環境というのは本当に大切だ。防災の話に関して、香川県は確かに災害が少ないと思う。少ないからこそ、安全な地域だと思う反面、防災力は弱いと思う。あまり取組が進んでいない。経験が無いために防災力はまだまだ弱いと思うので、防災力を高めていったら売りになるのではないかなと思う。また、物価高騰も気になっている。東京のマンション価格が一室7000万で若い方が「そんなの買えない」と言っていた。これは地方に呼び寄せるチャンスではないか、と思った。市には空き家がたくさんあるが、人を呼ぼうとなったときに、よそ者には入ってきてほしくない、という人がいる。そういう考えが抜けていけばかなりよくなるのではないかな。うまく循環していかないかな、と思っている。
委員	男女共同参画で気になることがあったので伝えたい。辛立文化センターで先日開催された冬のつどいはとても楽しかった。99.9%成功だったと思う。女性も男性も子どももいて、いろいろなコンテンツがあった。最後のもち投げでは、就学前後で拾うエリアをわけていて素晴らしかった。よくないケースだと男女別でわけたりもすると思われるが、そんなことはなかった。しかし、もち投げのとき、台に上がった人が全員男性だった。催しに協力したのは女性もいたのになと思った。女性が上級の役職にいないのではと感じ、準備を頑張っていた女性は上がれないのか、と思った。「男の人ばかり？」と思わず声に出し

事務局	たら、近くの人に「もち投げは女の方が上がったらだめ、男の人でないとだめ」と言われ、いまだにそう思い込んでいる人もいるのだと思った。できれば人権啓発の催しでそういうところにも気を配ってほしかった。最後の最後に惜しいな、と思った。
委員	来年の参考にさせていただきます。
委員	防災について、防災会議には女性が入っていると思うが、被災した際、女性の視線で見るのは必要だ。過去の大災害のときに性被害が起こっている。トイレや着替えのとき、就寝時に知らない人が布団に入ってきて来るということもあったので、女性の目線での防災を考えて行ってほしい。また、先の委員意見にもあったが、自治会長や補佐なども男性が多い。そういう中で古い慣習に苦しむ女性も出てくるのではないかと思う。 男女共同参画プラン基本方針3「学びの場における男女共同参画の推進」に関し、自分らしく生きることや性の多様性の尊重について考えている。私の勤務する学校では制服規定を無くした。6年生になると自分の生き方や夢を持つことをとても大事にしているということがわかる。授業参観は、自分はこういうことをやってみたい、こういう風に生きたいと、自分の夢を語る会になっていた。そのように子どもたちは意思を表明するのだが、それを行政や地域が受け止められるかどうか、というところがポイントだ。夢を叶える土台が一つでも増えていけばいいと思う。子どもたちは小学校生活の中で自分や地域と向き合いながら、一生懸命考えていると思う。彼らが中・高と夢をつなげていくために、子どもたちが卒業するまでに「自分の大切なことを大切にするんだよ」としっかり教えていきたいと思っている。全学年を通しては、地域の方のお力をいただきながら学習する機会をできるだけたくさん取っている。私自身、給食の時間などは子どもの中に入って一緒に活動している。どうか子どもたちには近い距離で外国の方、地域の方と関わってほしい。教職員間でもその思いを共有しながら子どもたちの経験を増やしたい。やはり地域に関心を持ってほしい、そのためには、人との関わりの中で大事なものは距離だと思っている。地域の方が好きだという子どもを育てたい、増やしたい。価値観が多様になってきている中で、生きにくい時代になってきたという人もいるが、自分らしさを出しやすい時代だとも思う。人権学習では苦手な部分も含めてその人の全てを受け入れようという学習を行っている。自分らしさを自分自身で実感しながら前に進んでいってほしい。さらにさぬき市らしさについても考えたい。当然さぬき市の中にもここを変えてほしいなというところがあると思うが、そういう部分を含め、いろいろな人たちの協力を得ながらさぬき市が好きと思える子どもたちを育てていきたい。

委員	男女共同参画については意識だけではなく、具体的な行動が大事だと思った。今の制服規定の話にしても、思っているだけではだめで、具体的に動いたとのことだが、自治会長の話についてもそうだった。男じゃないとだめ、という意識が若い女性の流出原因の一つとなっているのではないかと。SNS 上でも性別による差別、デマや中傷などが流れている。子どものころから「正しく判断するにはこうしたらいんだよ」ということを教えていくことが大事だと思う。投資詐欺などもそうだが、これは詐欺ではないかと思える子どもたちを育てていかなければいけない。
委員	皆さんの意見を聞き、改めて地元のよさを感じた。私の職場では、有給を取得しよう、風通しをよくしよう、こういう言葉が当たり前のように出てくる。これはとてもありがたいことで、同僚の男性に話を聞くと、妻から「早く帰ってきてくれて嬉しい」と言われた人が今年に入ってからでも 3、4 人はいた。残業削減、ワーク・ライフ・バランスのために、仕事の効率化の議論をした。取組をどんどん進めていくことが、最終的に男女共同参画につながっていく。職場でも家でもしっかり協議したいと思った。
委員	市内では特に一軒家の賃貸が少ないと聞いたことがある。空き家を活用できるのではないと思う。また、棟上げの話だが、昔、女性は生理があるから上に上がってはいけない、家がつぶれるという話を聞いたことがあるが完全な迷信だ。私は棟上げで上に上がったことがある。とてもよい景色だった。性別に関係なく楽しんでいけばいいと思う。自分の子どもには、あなたの人生なのだから県外でも海外でも行っているいろいろなものを見ておいでと伝えている。息子は最終的には帰って来たいと言っている。いろいろな形があると思う。「地元に戻りたくないのに親が帰ってこいと言う」という声をよく聞くので、コミュニケーション次第だと思うが、古い慣習にとらわれず、新しくした方がいいことは新しくすべきだと思う。明るい未来を描きながら進んでいきたい。
委員	委員になる前は男女共同参画について真剣に考えたことが無かったので、勉強するいい機会をあたえてもらった。この話題は、実際には議論が終わらないと思う。日本の歴史上、男性がこうで女性がこう、という役割分担が長年続けられたので、努力目標を作りすぐ取り組めるというものではないのではないかと。議論は繰り返され、終わりが無い。先ほどのもち投げの話を聞いていて思ったのは、今までさぬき市の市長に女性はいなかった、ということだ。副市長は、次の市長は、と考えを巡らせていたのだが、とにかく女性を据えればよい、ということではなく、能力によりどういう人をどういうところに置くのか、ということが本質的だ。企業ももちろんそうで、性別に関わらず役職につくべきだ。しかし出産や子育てという部分もあるので本当に難し

委員	い課題だなとずっと感じている。 2024年でショックなニュースとホットなニュースを一つずつ上げたい。ショックなのはアメリカの大統領選の結果だ。アメリカ初の女性大統領を期待していた。人種差別などについても考える機会となった。よかったニュースは、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したことだ。90歳の方もいてよく行かれたな、と思った。ノルウェーからの帰りのスカンジナビア航空機では、機長のアナウンスがあり、機内で拍手が起こったそう。ニュースを見て涙が出そうだった。それに関連して、現地に行った高校生の平和大使が、自分たちがやっていることは微力だけど無力では無いということを言った。すごい言葉だな、思った。だからこの男女共同参画社会に向けた取組で私たちがやっていることも、微力ではあるが無力ではないと信じてこれからもやっていけたと思っている。
会長	たくさんのご発言をありがとうございました。事務局は、委員の意見を参考に今後の事業を進めてください。その他、事務局から何かありますか。
事務局	<説明> ・次回男女共同参画推進協議会開催日程について ・男女共同参画社会川柳・俳句について
会長	ほかに委員の皆さんから質問や、その他連絡したいこと等はありませんか。
委員	<なし>
会長	それでは最後に、石原市民部長から、あいさつをお願いします。
市民部長	<市民部長あいさつ>
会長	ありがとうございました。本日もスムーズな進行に御協力くださりありがとうございました。これで令和6年度第3回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。 < 閉 会 > (16 : 10)